LTP vol.24
2014.6.1.発行
Little Tern Project

こあじ冊子 Koajisashi

NPO 法人リトルターン・プロジェクト通信

Contents

■速報!! 整備作業後、コアジサシが飛来!! 営業!!・・・・・・・・1P
■新連載 「コアジサシをめぐる冒険」・・・・・・・・・・・・・・2P
■Short Essay「山桜と鶯」 / TOPICS「足環物語」・・・・・3P
■今後の活動予定 / 表紙の写真「こんにちは」・・・・・・・・4P

速報!! 整備作業後、コアジサシが飛来!!営巣!!

●3 月 29 日 30 日に雨が予想されたため、清掃と捕食者対策を中心に作業を行いました。排水口周り、通路もすっかりきれいになりました。カラス除けの補修とレンガ、金網シェルターの設置を行いました。

●3 月 30 日 生憎の雨でボランティアとの整備作業は中止になりましたが、スタッフ有志でカラス除けの補修作業とコンクリートガラ区画のリフレッシュ作業を行いました。

雨の中のカラス除け水糸張り作業

貝殻作業参加者の面々

●4 月 13 日 夏場の熱中症対策にパイプシェルターを白く塗りました。昨年の実験で中の温度が 2～3℃低くなることが確認されています。昨年起きた猛暑での脱水症状事故対策の一環になればと思います。今年の調査の中で確認、検証を行う予定です。

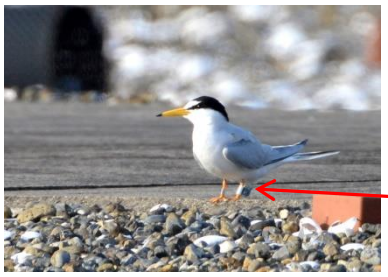
●4 月 20 日 富津市水産加工業協同組合様から格安でご提供いただいたバカガイの貝殻を、黒っぽくなっているコンクリートガラ区画に撒きました。営巣地は貝殻で見違えるほどに白くなりました。

●4 月 29 日 屋上営巣地にデコイを設置し、鳴き声を流しました。コアジサシがデコイ上空を群舞！！数秒ですが、数羽が舞い降りました。

●5 月 11 日 営巣調査研修会を実施。30 羽前後のコアジサシが飛翔。営巣を始めたコアジサシの巣、4 巣（各 1 卵）を確認。昨年より 1 週間早い始まりです！！ 【松村 雅行】

卵を抱くコアジサシ（5 月 11 日）

餌をくわえながら飛翔！！（5 月 11 日）



渡りのルートを探るために昨年取り付けた機器を付けた個体を確認！（5 月 11 日）

新連載　コアジサシをめぐる冒険

早川　雅晴

NPO 法人リトルターン・プロジェクト副代表
水鳥研究会代表、植草学園大学准教授

早川雅晴氏は長年、地上営巣性鳥類の保全生態学的研究に邁進されていたが、特に生息域を失いつつあるコアジサシの屋上営巣に着眼し、その実現の為に尽力されていた。森ヶ崎水再生センター屋上営巣地での取り組みにも先人の専門家として手腕を発揮していただいた。そんな早川氏のコアジサシと歩んできた様々な実体験をつづっていただく連載「コアジサシをめぐる冒険」が始まります。乞うご期待！！

第１回「駐車場での営巣の発見」

私とコアジサシの出会いは、千葉市・幕張周辺の埋立地で生物の調査をしていたときに、使われていない臨時の駐車場で見慣れない鳥を見つけたことが始まりです。1990 年のことでした。早速、千葉県立中央博物館の桑原和之先生（コアジサシと同じ場所に繁殖しているシロチドリの研究を長年されています）に連絡し、見慣れない鳥の正体がコアジサシの雛であることを教えてもらいました。

コアジサシの巣（文末に注釈）

当時、幕張の海岸部は広大な埋立地が広がっていました。区画整備され道路はできていましたが、区画の中は幕張メッセとホテルが幾つか建てられ始めていているだけで、ほとんどが空き地でした。空き地の区画は小さなものでも２ha 以上（コアジサシのコロニー形成に十分な広さ）と広く、花見川から JR 京葉線の新習志野駅までの区間に、多い年には 10 箇所くらいありました。

臨時駐車場のあった場所（若葉）

この多くは、2 年に 1 度、幕張メッセで行われていた「東京モーターショー」の時にだけ、臨時の駐車場として利用されていました。モーターショーが開催されるのは 11 月の２週間だけですから、春から夏の繁殖期にかけてはコアジサシの利用が可能でした。同地区には常設の駐車場もあり、GLAY の 20 万人ライブイベントを行うことのできるくらい広いのですが、バブル時代のモーターショーには多くの人が集まったため、常設の駐車場だけでは足りず、その何倍も収容可能な周辺の空き地が臨時駐車場として使われていたのです。臨時駐車場を管理している千葉県企業庁は、空き地の周囲に柵を２重に設けました。このことは繁殖の阻害要因になる人の侵入を防ぐことに役立ちました。また、雨天時に駐車場がぬかるんでしまわないよう簡易舗装を施しました。このことにより植物の生育が抑制された裸地環境が長年維持されていました。

臨時駐車場の景観（打瀬）

隠れる場所のない舗装された駐車場の上で絶滅危惧種が営巣していることを発見し、生物のたくましさに驚くと共に、この綺麗で身近な鳥を守っていかなければならないという使命感が湧き出てきました。

幕張での営巣場所

【巣】（臨時駐車場には車を止める位置を指示するためのトラロープが規則的に張り巡らされていたため、広い駐車場内でも巣の位置を特定することが容易でした。）

つづく

Short Essay

「山桜と鶯」 加藤幸子

今年も庭でヤマザクラのお花見ができた。といっても大きめの植木鉢に植わっている一メートルほどの桜の木。二昔も前のこと、山形県月山のふもとのある村でのイベントに参加したお礼に、地元の産物をあれこれ送っていただいた。その最上部に幼い葉と淡紅色のつぼみを着けたヤマザクラの枝が一本入っていたのだ。村の人たちの暖かい気持が伝わってくる。花瓶に移すと、すぐに花も葉も開いた。

花が散ってからも捨てるのが残酷な気がして、庭にあった植木鉢に無雑作に挿してみた。肥料も入れず世話もせず放っておいたのに、ヤマザクラの生命力は強かった。それから毎年、この辺りのどの桜よりも早く、〝春〟を私に届けてくれる。ほろほろした優しい花といっしょに。植木鉢で押しこめられているのに背は伸びていないけれど、元気で私とともに二十年間も暮らしてきた。

ヤマザクラのお花見をしていると、冬のあいだは地鳴きしかしなかったウグイスがホーホケキョと一声。おまえも山の故郷がなつかしくなったのね。

―終―

TOPICS

「足輪物語」

昨シーズンのことになりますが、2013 年 6 月 16 日に森ヶ崎営巣地において標識足環を付けたコアジサシを観察しました。標識足環とは環境省の委託・許可を受けて付けられるアルミニウム製のリングで、一つ一つに通し番号が刻印されています。足環の番号を確認するには通常は鳥を捕獲しなくてはなりませんが、そのコアジサシは営巣中のメスで同じ場所に留まっていたので、写真撮影によりなんとか足環の番号を読み取ることができました。

足環をつけていたコアジサシ♀

苦労して読み取った足環の番号は「KANKYOSHO TOKYO JAPAN 3E05783」でした。さっそく山階鳥類研究所に問い合わせると、2002 年 7 月 13 日に同研究所の茂田良光氏が森ヶ崎営巣地でヒナ鳥に付けたものだということがわかりました。つまり御年約 11 歳（10 歳 11 ヶ月）のコアジサシおばちゃんが生まれ故郷の森ヶ崎で営巣していたということになります。

コアジサシがかなり長生きの鳥だということは聞いていましたが、現実にそれが確認できたのはうれしいことです。しかし少子高齢化というのも心配です。これからもできるだけ長生きして、多くのヒナを育ててもらいたいものです。

以上、1 センチ足らずの小さな足環リングの物語でした。 【大塚　豊】

執念の撮影で解読された標識番号

これからの活動予定

いよいよコアジサシの季節がやってきました。私たちの活動も本番です。
観察会の詳細や最新情報はホームページ（ブログ）や大田区報をチェックお願いします。
皆さんの近くの河原、海岸、空き地にも姿を見せてくれるかもしれません。目撃情報待っています！

■5 月 11 日（日）　営巣調査開始。 8 月中旬まで実施予定です。
■6 月 3 日（火）　「大森第一中学校コアジサシ観察会」（森ヶ崎水再生センター屋上営巣地）
■6 月 29 日（日）7 月 5 日（土）　「森ヶ崎水再生センター屋上営巣地コアジサシ観察会」（一般対象：大田区と共催）
■7 月 16 日（水）　森ヶ崎水再生センター主催「ホタルの夕べ」 ブース出展
■11 月 1 日（土）、2 日（日）　ジャパンバードフェスティバル　ブース出展（主催：ジャパンバードフェスティバル実行委員会）
■11 月 30 日（日）　エコフェスタワンダーランド　ブース出展（大田区主催：大田区立新宿小学校）
■12 月 6 日（土）　NPO 法人リトルターン・プロジェクト「報告会」（会場未定）

表紙の写真「こんにちは」

もう 12 年も昔のことになりました。
森ヶ崎のこあじさし営巣地の整備開始の初年でした。
スラッジライトをまくとすぐにたくさんの卵が産みつけられ、6 月の下旬には爆発的なお誕生ラッシュとなりました。

私たちは初めて間近で見るヒナを、踏まないように歩くのが大変なほどでした。調査隊から少し離れてしゃがんでみると、一羽のヒナが寄ってきます。特に人をこわがるふうでもなく、ちょこちょこ歩いています。何気なくカメラを向けたら写っていたのがこの写真です。

その頃はデジタルカメラも走りの頃で、シャッターボタンをおしてからシャッターが切れるまでの時間が長く、1 秒以上はかかっていました。記録媒体への記録にも時間がかかり連写はできません。背中の小さな液晶モニターも野外ではほとんど見えず、被写体にレンズを向け、適当にシャッターを押すだけだったのです。

親鳥をまちわびるヒナ
（同年撮影）

その頃、水中写真をニコノスという水中専用の２眼カメラでよく撮影していましたが、それに似た感触でした。水中ではカメラのファインダーは使い物にならなかったのです。なんとも手ごたえのない撮影方法でしたが、この写真だけはシャッターを押したとき撮れたな、という感触がありました。

そのあともヒナの撮影は何度かしましたが、近づくとうずくまって石になるか、日陰を求めて人に寄ってきても大鳴きするばかりで、あれほどの目力でカメラ目線をくれたのはあのヒナだけでした。【伊東真寿美】

リトルターン・プロジェクト活動概要

2001 年に絶滅危惧Ⅱ類の野鳥コアジサシの屋上営巣を大田区昭和島にある森ヶ崎水再生センター施設屋上で発見した私たちは東京都下水道局や大田区、そしてたくさんのボランティアの協力を得て、世界初の屋上営巣地を整備しました。コアジサシの生息域である、砂浜や玉砂利河原、そして干潟などの水辺環境が失われつつある現在、コアジサシをキーワードにそのような水辺環境の保全を視野に入れ、自然と人間の共生を目指して活動しています。

会員になって一緒にコアジサシを守りましょう！

NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥“コアジサシ”を守りませんか？

◇入会届のダウンロード先◇
http://www.littletern.net/nyukai.html
または、右記の問い合わせ先へご連絡ください。

◇入会届の送付先◇
〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方
NPO 法人リトルターン・プロジェクト宛

◇発行：NPO法人リトルターン・プロジェクト
◇編集　増田　直也
◇協力　牧野　ふみよ
◇写真　伊東　真寿美、大塚　豊、早川　雅晴、松村　雅行
◇挿画　堀越　保二
◎無断転載・複写複製を禁じます。
☆お問い合わせ先
〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方
NPO 法人リトルターン・プロジェクト
E-mail：info@littletern.net　Tel:090-1778-5917
Website-URL http://www.littletern.net/